

日本の国語教科書と児童文学

西山利佳 (青山学院大学)

I はじめに

本プロジェクトで日本、韓国、中国、台湾の小学校国語教科書を比較検討するにあたり、日本の小学国語教科書収録教材を担当した。以下、調査対象とした教科書の概要と、後掲一覧表、本項用語について簡単に説明しておく。

I-1 調査対象教科書

1949(昭和 24)年から始まった教科書検定制度の下、小学校国語教科書発行会社は当初 3 社だったが、1961(昭和 36)年に最大の 11 社となり、1971(昭和 46)年には 5 社に減った。

これには「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」が関係しており、教科書発行の要件が厳しくなったり、広域採択制になったからだといわれる。注 1

その後消長があり、現行小学国語教科書版元は光村図書、東京書籍、教育出版、学校図書の 4 社となっている。以下、調査対象とした教科書はすべて平成 31 (2019) 年 2 月 25 日検定済で、令和 (2020) 年度に発行されたものである。各社の編集委員等(各教科書の奥付表記に従う)の情報を列記する。編集委員筆頭者以外は、児童文学関係者の名前のみ記しておく。

光村図書) 編集委員: 甲斐睦朗ほか 39 名>石井睦美・工藤直子・中川李枝子・蜂飼耳

東京書籍) 著作関係者代表: 秋田喜代美、顧問: 角野栄子・西本鶏介他 2、/ほか 71 名>宮西達也

教育出版) 著作者: 田近洵一ほか 42 名>佐藤宗子・松山雅子・村中李衣

学校図書) 著作関係者: 鶴田清司ほか 38 名>清水眞砂子・木坂涼・藤田のぼる

I-2 一覧、本稿表記について

本稿では上記小学校国語教科書出版社名をそれぞれ「光村図書→光村」、「東京書籍→東書」、「教育出版→教出」、「学校図書→学図」と略称する。また、対象は小学国語教科書に絞っているので、「小学国語教科書」といちいち記載せず、「1 年下」等と記す。また教育制度に準じた呼称「児童」ではなく「子ども」とする。今回の研究は国語教育学としての考察を目指すものではなく、児童文学の課題を考察することを目的としているため、学校教育の対象者である「児童」ではなく、読者である「子ども」として意識したい。

この間のプロジェクトでは「読むこと」教材のうちの「物語・文学」を対象としているが、例えば、付録や資料といった扱いで巻末に小さめの字で収録されていており、領域として「読むこと」の教材として編集されていなくても、子どもが直接読める形で提供されている限り、一つの作品として取り上げてい

く。

以下、日本児童文学学会研究大会での 3 回にわたるラウンドテーブルに従って調査結果を整理し、全体を通して見えてきた問題をまとめとする。

Ⅱ 文学教材の傾向—第 59 回日本児童文学学会 (2020 年 11 月 15 日)ラウンドテーブル

Ⅱ-1 収録文学作品の実態

本調査対象である、平成 30(2018) 年度検定教科書(現行 4 社)の文学教材を平成 26 (2014) 年度検定教科書で文学作品数を比較した。本稿で「児童」ではなく「子ども」を使うのと同じ理由で、子ども読者にとって「お話」として受け取れるものは同じように扱おうと考える故である。

光村は平成 26 年度検定版全 41 作から 13 作減 (うち 7 作が昔話)、12 作新採用 (うち 3 作が昔話) で、40 作となった。新しく加わった創作作品は以下の 9 作である。書き下ろし作品には*を付す。

- ・小風さち「やくそく」(1 上) *
- ・中川李枝子「ぞうさんのぼうし」(1 下) *
- ・岸田衿子「ジオジオのかんむり」(2 下) 出典：福音館・絵本、1978 年
- ・斉藤倫「まいごのかぎ」(3 上) *
- ・工藤直子「とかげとぞう」(3 上) 出典：理論社、2013 年
- ・朽木洋「たずねびと」*
- ・今村葦子「雪の夜明け」(5 上) 出典：童心社・絵本、2012 年
- ・森絵都「帰り道」*
- ・ジム＝ラマーシュ／金原瑞人訳「いかだ」*(訳しおろし)

東京書籍は 40 作品から 8 作品減、3 作新採用で 35 作品となった。新しく加わった作品は以下の 3 作である。

- ・とよたかずひこ「あめですよ」(1 上) *
- ・茂市久美子「クマの風船」(3 下)* (参考図書『ゆうすげ村の小さな旅館』講談社、2000 年)
- ・天野夏美「いわたくんちのおばあちゃん」出展：天野夏美『同』主婦の友社、2006 年

教育出版は 31 作から 2 作減、8 作新採用で 37 作品となり、唯一文学教材数が増えているが、その結果総数が他の 3 社と並んだと言える。新しく加わった作品は以下の 8 作品である。

- ・レオ＝レオニ／谷川俊太郎訳「スイミー」(1 下) 出典：好学社、1999 年
- ・川北亮司「のんびり森のぞうさん」(1 下) 出典：岩崎書店、1996 年
- ・西巻芽子「かまわずどんどん」(2 下) 出典：『おおきなねこのクロとちいさなねこのシロ』偕成社、2000 年
- ・蜂飼耳「葉っぱ」(3 下) 出典：『のろのろひつじとせかせかひつじ』理論社、2010 年

- ・田丸雅智「レモン自転車」(4 上)*
- ・村中李依「走れ」(4 下)* cf. 1996 年版で教科書のために書き下ろし →岩崎書店、1997 年
- ・ジョン=エイキン/猪熊葉子訳「三人の旅人たち」(5 下) 出展：『しずく的首飾り』岩波書店、2005 年
- ・杉みき子「あの坂をのぼれば」(6 上) 出典：『小さな町の風景』偕成社、2012 年

学校図書は 43 作から 12 作減(内 4 作が昔話)、6 作新採用(内昔話は「さるじぞう」一作)で 37 作となった。新採用となった創作作品は以下の 5 作である。なお、学校図書の教科書サイトからは出典一覧にたどり着けなかったため、「?」と共に、既刊の同名作を上げておく。

- ・無署名「かえるのかさ」(1 上) *?
- ・肥田美代子「山のとしょかん」(2 上) 出典?：文研出版、2010 年
- ・かさいまり「くれよんがおれたとき」(2 上) 出典?：くもん出版、2015 年
- ・重松清「バスに乗って」(5 下) *?
- ・茂市久美子「誓約書」(6 上) 出典?：『招福堂のまねきねこ：またたびトラベル物語』学研プラス、2009 年

II-2 定番教材・作家

現行 4 社が平成 26 年度検定版から引き続き採用している教材がある。「おおきなかぶ」(1 年)、「お手紙」(2 年)、「モチモチの木」(3 年)、「ごんぎつね」、「一つの花」(4 年)、「大造じいさんとがん」(5 年)がそれである。また「スイミー」が教出の平成 30 年度検定版で採用され、全 4 社掲載となった。

小学校 6 年間に教科書で出会う文学教材が 4 社平均で 37 作しかない中で、7 作は共通教材となっているわけである。

また、あまんきみこ作品の使用が突出している。

2 年生の教材：「名前をみてちょうだい」(東書)、「きつねのおきやくさま」(教出・学図)

3 年生の教材：「ちいちゃんのかげおくり」(光村)「おにたのぼうし」(教出)

4 年生の教材：「山ねこ、おことわり」(光村)「白いぼうし」(光村・教出・学図)

東書以外の教科書を使っている小学生は、6 年間であまんきみこの作品に複数回出会うことになる。あまんほどではないが、複数の作品が複数社、複数学年にわたって採用されている作者は宮沢賢治、安房直子がいる。

以上のように共通教材、頻出作家に注目すると、4 社の教科書はどうしても似通った印象になってしまいます。1932 年に発表され、1956 年以来耐えること無く教科書に掲載され続けてきた「ごんぎつね」は最たる例だが、共通教材の古さ(古びているということではない)も気になる。

II-3 豊富な読書案内

共通教材、定番教材、作家が固定的であることを補完するかのよう、各社の読書案内は多彩であった。それぞれ、ホームページの「紹介図書一覧」によると以下のように多数の、そして新しい作品が紹介されている。目を留めた児童文学作品を何点かずつ例として挙げておく。

・光村図書：約 500 点

- 例) 令丈ヒロ子『パンプキン！ 模擬原爆の夏』
戸森 しるこ『ぼくたちのリアル』
梨屋 アリエ『ココロ屋』

・東京書籍 約 520 点

- 例) 草野たき『ハッピーノート』（福音館書店、2005 年）
上橋菜穂子『精霊の守り人』（偕成社、1996 年）
日本児童文学者協会編『まぼろしの犬』（新日本出版社、2006 年）

・教育出版 約 450 点

- 例) 宮川ひろ『天使のいる教室』（童心社、2012 年）
市川宣子『きのうの夜、おとうさんがおそく帰った、そのわけは……』（ひさかたチャイルド、2010 年）
菅野雪虫『天山の巫女ソニン』（講談社、2006 年）

・学校図書 約 450 点

- 例) 濱野 京子『ソーリ！』
藤重 ヒカル『日小見不思議草紙』
山本 悦子『神隠しの教室』

書影と共にカラフルな誌面は、教科書で学んだ事、開かれた目を、より広げ深めるための工夫と魅力に満ちている。ここから多くの児童文学作品にアクセスしていく子どももちろんいるだろう。しかし、担任のサポートだけでなく、その学校の図書館環境、家庭環境、地域の図書館の実態などの違いで、この紹介リストがどのように生きてくるかは大きく違ってくるのは明らかだ。学校図書館司書の配置が進むだけでも、大きく変わってくるだろう。「格差社会」「子どもの貧困」が深刻化する日本の現状を考えると、日本の小学校に通っている子どもがあまねく手に取ることができる教科書の役割の大きさを思わずにはいられない。

III 第 60 回日本児童文学学会 (2021 年 11 月 21 日) ラウンドテーブル

「東アジアの小学校国語教科書における翻訳児童文学—日中韓台の比較から—」

前章でカウントした文学作品中、翻訳作品は以下の通りである。

光村図書は 40 作品中 6 作、東京書籍が 35 作品中 5 作、教育出版が 37 作品中 6 作、そして学校図書が 37 作品中 5 作が翻訳作品である。その 5、6 作の内「おおきなかぶ」と「スイミー」、「お手紙」の三作が全社に共通している。「お手紙」の出典アーノルド・ローベル『ふたりはともだち』（文研出版、1972 年）は絵本とは分類されない書籍だが、絵も多く、「おおきなかぶ」「スイミー」は絵本でも子どもたちに親しまれている作品で、ここから絵本の教材化の問題が浮かび上がってくる。左開きの絵本を、縦書き右開き

の教科書に移し替えることにより、「スイミー」たちが作った大きな魚の向きに端的に表れたような齟齬がでてくるのである。それだけではなく、そもそも絵と文の緊密な相乗効果で完成する絵本という表現が、教科書に掲載される時、どんなに絵をふんだんに再録したとしても、「絵本」としての表現は望むべくもない。これら三作に限らず、絵本を出典とする教材は各社で複数見られるが、児童文学を講じる時絵本という表現手段について力説する教師の一人として、複雑な思いはぬぐいきれない。

さて、これらの作品が韓国・台湾・中国でも親しまれていたなら、児童文学に関する共有できる土台として考えることができるかもしれない。

では、翻訳作品に限らず、小学国語教科書にはアジアに関する物語作品はどのようなものが掲載されているだろうか。残念ながら、4 社を見渡しても以下の 4 作品のみであった。(古典分野といえる「論語」や「漢詩」等はここではカウントしない。)

- ・「スーホの白い馬」(光村 2 年下) 出典：大塚勇三・再話、赤羽末吉・画『スーホの白い馬』福音館書店、1967 年
- ・「三年とうげ」(光村 3 年下) 出典：李錦玉・作、朴民宜・絵『朝鮮のむかしばなし きんねん峠』岩崎書店、1981 年
- ・「世界一美しいぼくの村」(東書 4 年下) 書き下ろし、参考図書：小林豊『せかいいちうつくしいぼくの村』ポプラ社、1995 年
- ・「世界一美しい村へ帰る」書き下ろし(参考図書：小林豊『せかいいちうつくしい村へかえる』ポプラ社、2003)

IV 第 61 回日本児童文学学会 (2022 年 11 月 20 日) ラウンドテーブル

東アジアの小学校国語教科書における児童文学を考える—伝統的な言語文化に関する教材を中心に

IV-1 制度上の背景

この回の背景となる教育制度上の大きな変化をまず整理しておく。

2006(平成 18)年、第一次安倍政権下で、1947 年に制定された「教育基本法」が初めて「改訂」された。1947 年版教育基本法の前文第二段落で「われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性豊かな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない。」と書かれていた部分は、2006 年版では次のように変わっている。(傍線引用者)

我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。」

同改訂版の「(教育の目標) 第二条 五」では、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する度を養うこと」とある。

この教育基本法改定を受けて中央教育審議会は平成 20 (2008) 年 1 月 17 日付けで「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について (答申)」を出している。その中の、小学国語に関する「7. 教育内容に関する主な改善 (3) 伝統や文化に関する教育の充実」には以下のようにある。

まず、国語は、長い歴史の中で形成されてきた我が国の文化の基盤を成すものであり、また、文化そのものである。国語の一つ一つの言葉には、我々の先人の情感や感動が集積されており、伝統的な文化を理解・継承し、新しい文化を創造・発展させるためには、国語は欠くことのできないものである。このような観点から、具体的には 8. で示すが、(1) で示したとおり国語科では、小学校の低・中学年から、古典などの暗唱により言葉の美しさやリズムを体感させた上で、我が国において長く親しまれている和歌・物語・俳諧、漢詩・漢文などの古典や物語、詩、伝記、民話などの近代以降の作品に触れ、理解を深めることが重要である

上記答申に従い平成 20・21 (2008・2009) 年に改訂された「小学校学習指導要領」の「伝統や文化」に関する記述を抜粋する。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する

1・2 年生＝ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたりし合ったりすること

3・4 年生＝ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること

(イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと

5・6 年生＝ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること

(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること

IV-2 「伝統的な言語文化」教材

文学教材をカウントするにあたっては、領域に関係無く「お話」として子どもが読める作品を対象とした。この新設された「伝統的な言語文化」という領域は「昔話」や「神話」を含むものの、以前の「言語事項」を含みこむことになったため、「文学教材」を拾い上げるようにはいかない。そのため、各社の「領域別単元一覧」に従い、数えると、光村が 24、東書が 11、教出が 21、学図が 21 である。昔話であっても「おおきなかぶ」や「おんちよろちよろ」「かきこじぞう」などは「読むこと(文学)」教材として位置づけられている。狂言「柿山伏」も「読むこと」教材扱いである。また、付録は一教材として扱われていないので、この数字には、これらは含まない。また「故事成語」でも、「故事」が読みものとして独立し

て読める形、イラストで大筋を伝える形、言葉だけを挙げて、「調べてみよう」と促しているものと、扱い方がそれぞれである。

「伝統的な言語文化」として掲載されているのは、低学年では読んでもらう「昔話」と「神話」、中学年で俳句が入り、高学年で「竹取物語」や「平家物語」といった著名な古文のさわりの部分に出会うという学習指導要領に基づく展開と共に全学年を通して設けられているページが有り、その傾向が興味深いので次節で述べることにする。

IV-3 「伝統的な言語文化」を担う季節

光村図書は 2 年生から始まる「季節の言葉」で、最初は動植物の名前に始まり、3 年で「暮らし」、4 年が「地域行事・伝統行事」、5 年が「気象」、6 年が「二十四節気」というくくりで、単語だけでなく、そこに俳句や短歌も使われていく。

教育出版は 3 年生が「きせつの言葉を集めよう」、4 年生が「月」のつく言葉、5 年生が「鳥」、6 年生が「雨」で、単語だけでなく俳句や短歌を取り上げている。

学校図書は 2 年生から「季節のたより」のページが設けられ、2 年生では動植物名、3 年生で行事名、4、5 年生で俳句が使われ、6 年生では「二十四節気」となっている

東京書籍は教材として一覧に出てこないが「きせつの足音」と題したコーナーが上下巻に各 1 ページを二段組みで設けられ、それぞれ、春と夏、秋と冬のイメージの韻文を掲載している。他の 3 社が見開きを使って四季に合わせて配置していることと比べると、使用ページ数は 4 分の 1 で、相対的に「季節」への淡泊さが潔く感じる。

俳句は季語があることから、使い勝手の良い教材になっている。また、「枕草子」の「春はあけぼの」も絶好の教材として、活用されている。全体を通して、美しいカラー写真がふんだんに使われていることもあり、季節感あふれる情緒が「伝統」のイメージを彩っている。

IV-4 漢文教材について

漢文教材を調査した結果は以下の通りである。故事の内容まで説明している場合と、単語だけが掲載されている場合にわけて一覧にした。

		説明付き	紹介のみ				
4社採用	五十歩百歩	3	1(学図)				
	蜚雪の功(蜚雪)	1(光村)	3				
	漁夫の利	1(教出)	3				
	矛盾	2(学・教)	2(光・東)				
3社採用	春暁	3(光・教・東)					
	推敲	1(教出)	2(光・東)				
2社採用	蛇足	2(教・光)	1(東書)				
	温故知新	2(東・教)					* 東書4上で語句のみ、6年で説明あり
	杞憂	2(教・光)					
	背水の陣	1(教出)	1(東書)				

以下、一社のみ掲載の漢文は以下の通りである。語句のみ掲載のものに*を付した。

雨垂れ石を穿つ* (東書、4 上)

間髪を容れず* (東書、4 上)

鶏口牛後* (東書、4 上)

胡隠君を尋ぬ(高啓)(学図、6 下)

呉越同舟* (東書、4 上)
助長* (教出、4 下)
水魚の交わり* (東書、4 上)
静夜思 (教出、5 上)
切磋琢磨* (東書、4 上)
大学 心ここにあらざれば (教出、5 上)
他山の石* (教出、4 下)
朝三暮四* (学図、4 下)
朝令暮改* (教出、4 下)
登竜門 (光村、3 下)
百聞は一見にしかず (東書、6)
覆水盆に返らず* (東書、4 上)
諸葛亮の言葉 学ぶにあらざれば… (東書、6)
論語 過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ (光村、5)
論語 一を聞いて十を知る (東書、6)
論語 己の欲せざる所は人に施すこと勿かれ (光村、5)

これらが、中国、台湾、韓国の子どもたちと共有できる教養と言えるのかどうか、興味深い。

V まとめ

韓国、中国、台湾の教科書との比較検討するためには、日本の教科書の実態を知らねばならない。そこで日本の教科書を担当することになったが、3年間の調査を経て思うことは、現代児童文学の展開との乖離である。1960年前後を出発点として、質的に転換し、60年代、70年代を通して量的にも展開してきた現代児童文学は、短編より長編、童話ではなく小説を旨としてきた。しかし、教科書という制約故に、そこに掲載されるのは自ずと短編となる。出典も、新美南吉、宮沢賢治、浜田広介の作品が長く掲載され続けており、童話伝統批判以降の現代児童文学史が見せる様相との違いを突きつけられる思いがした。

また、先に述べた「季節」イメージの強さも、童話と自然の親和性を強化するのではないかと気になる注2)。

4社それぞれの教科書の6年間の総ページ数は、平均して1900ページほどである注3)。
そのうち、後掲の表に挙げた文学教材に割かれたページ数の割合は、約2割である注4)。
多彩で多様な作品の掲載を望んでもそれが物理的に困難であることは理解できる。しかし、それにしても、「いま」の「人間」の物語が少なすぎるのではないだろうか。韓国の教科書の「現在性」に驚かされてこのことに気づいたのだが、そういう目で見ると、厳密な意味での「昔話」でなくても、子どもにとっては等しく「昔話」と取れる話が多すぎるのではないか。例えば「たぬきの糸車」は岸なみという作者が創作した作品だが、子どもにとってはこれも「昔話」だろう。「ごんぎつね」も「大造じいさんとがん」も「昔」の話である。更にいえば「一つの花」も「ちいちゃんのかげおくり」など戦争児童文学も、子どもにとっては「昔話」ではないだろうか。教材一覧表に、いまの子どもの日常生活をリアリズムの手法で書いた作品に★印を付してみたが(椎名誠の「海の命」(光村・東書6)、杉みき子の「ゆず」(学図5下)

も、今の子どもたちにとって自分の日常からは遠いと感じられるのではないかと思い☆を付しておいた。)

その上、数少ない子どもの日常を捉えたリアリズム作品のうち複数が重松清の作品であることは、児童文学というジャンル側の人間としては悔しいというのが正直な感想である。

韓国の教科書と比較することがなかったら、日本の国語教科書がつくる文学イメージを客観視することはできなかったと思う。互いのスタンダードを問い直すことで、児童文学観を問い直し、その中から個別性と普遍性を見極めていけば東アジア児童文学史の構築につながっていくことだろう。

注1 府川源一郎「文学教材の傾向について」日本児童文学者協会編『日本児童文学』1997年5・6月号、特集2 国語教科書を採点する (小峰書店)

注2 西山利佳「〈自然〉指向の甘いわな」日本児童文学者協会編『日本児童文学』1994年11月号

注3 光村：1834 ページ、東書：1958 ページ、教出：1964 ページ、学図：1818 ページ。

注4 東書が約 18%で、ほか 3 社は約 22%。正し、作品のあとの学習のページなどはカウントしていない。

【資料1】日本の小学校国語教科書に載った児童文学作品

光村				東京書籍				教育出版				学校図書				
作者	作品名			作者	作品名			作者	作品名			作者	作品名			
(岡信子)	はなのみち	1上	昔話	とよだかずひこ	あめですよ	1上	昔話	無記名	くまさんとありさんの	1上	昔話	無記名	かえるのかさ	1上	昔話	
(西郷竹彦訳)	おおきなかぶ			武鹿悦子	とんこととん			無記名	けむりの きしゃ			無記名	たぬきのじてんしゃ			
(羽曾部忠)	おむすびころりん			内田莉莎子	おおきなかぶ			内田莉莎子訳	おおきなかぶ			うちだりさこ訳	おおきなかぶ			
小風さち	やくそく			森山京	かいから			安藤美紀夫	けんかした山			きさかりよう 再	さるじぞう			
中川李枝子	くじらくも	1下	昔話	角野栄子	サラダでげんき	1下	昔話	今江祥智	うみへのなかいたび	1下	昔話	あわなおこ	月よに	1下	★	
中川李枝子	ぞうさんのぼうし			森山京	おとうとねずみチロ			水谷章三	天にのぼったおけやさん			こうやまよしこ	はじめは「や!」			
斎藤洋	おかゆのおなべ			レオ=レオニ/	スイミー			レオ=レオニ/	スイミー			はいたにけんじ	ろくべえまってるよ			
岸なみ	たぬきの系車			(昔話)	石崎洋司			花さかじいさん	アーノルド=ロ			お手がみ	せたていじ			おんちよろちよろ
ハンス=ウイル	ずうっと、ずっと、大すき				竹下文子			風のゆうびんやさん	川北亮司			のんびり森の ぞうさん	レオ・レオニ			スイミー
蜂飼耳	わらしべちょうじゃ			昔話	あまんきみこ			名前を見てちょうだい	三木卓			「えいっ」	ひだみよこ			山の としょかん
工藤直子	ふきのとう				宮西達也			ニャーゴ	あまんきみこ			きつねのおきゃくさま	きさかりよう 再			ヤマタノオロチ
レオ=レオニ/	スイミー			2上	アーノルド=ロ			お手紙	福永武彦			いなばのしろうさぎ	かさいまり			くれよんがおれたとき
きたむらさとし	ミリーのすてきなぼうし		岩崎京子	かさこじぞう	2下	昔話	川崎洋	わにのおじいさんのたか	あまんきみこ	きつねのおきゃくさま	2上	神話				
中川李枝子	いなばの白うさぎ	2下	神話	浜田廣介(東)	ないた赤おに	(昔話)	浜田広介	ないた赤おに	2下	昔話	いわさききょう	かさこじぞう	2下	昔話		
アーノルド=ロ	お手紙						岩崎京子	かさこじぞう			岩崎京子	かさこじぞう			アーノルド・ロー	お手紙
石井睦美	わたしはおねえさん	2下	★				レオ=レオニ/	アレクサンダとぜんまい								
大塚勇三	スーホの白い馬							西巻芽子	かまわずどんどん							
北彰介	せかいーの話			昔話												
岸田衿子	ジオジオのかんむり															

光村				東京書籍				教育出版				学校図書				
作者	作品名			作者	作品名			作者	作品名			作者	作品名			
林原玉枝	きつつきの商売			工藤直子	すいせんのラッパ			八重樫直子	白い花びら			長崎源之助	つり橋わたれ	3上		
斉藤倫	まいごのかぎ	3上		ウラジール	はりねずみと金貨	3上		三木卓	のらねこ	3上		木村裕一	あらしの夜に			
工藤直子	とかげとぞう			川村たかし	サーカスのライオン			スーザン＝パー	わすれられないおくりも			斎藤隆介	モチモチの木			
あまんきみこ	ちいちゃんのかげおくり			斎藤隆介	モチモチの木			斎藤隆介	モチモチの木			川崎洋	わにのおじいさんのたか3下			
李錦玉	三年とうげ	3下 (昔話)		茂市久美子	ゆうずげ村の小さな旅	3下		あまんきみこ	おにたのぼうし	3下		アラン・ヨゼフ	わたしたち手で話します	★		
斎藤隆介	モチモチの木			茂市久美子	クマの風船			蜂飼耳	葉っぱ			あまんきみこ	白いぼうし			
あまんきみこ	白いぼうし			野呂昶	こわれた千の楽器			あまんきみこ	白いぼうし			西村まり子	ポレポレ	4上	★	
今西祐行	一つの花	4上		村中李依	走れ	4上	★	今西祐行	一つの花	4上		今西祐行	一つの花			
あまんきみこ	山ねこ、おこわり			今西祐行	一つの花			田丸雅智	レモン自転車			新美南吉	ごんぎつね			
新美南吉	ごんぎつね			新美南吉	ごんぎつね			新美南吉	ごんぎつね				ペンジャミン・エ	世界でいちばんやかま	4下	
椎名誠	ブラタナスの木	4下	★	小林豊	世界一美しいぼくの村	4下		木下順二	木竜うるし(人形げき)	4下						
安房直子	初雪のふる日			小林豊	世界一美しい村へ帰る			村中李依	走れ		★					
光村				東京書籍				教育出版				学校図書				
作者	作品名			作者	作品名			作者	作品名			作者	作品名			
蜂飼耳	なまえつけてよ		★	いとうひろし	だいじょうぶだいじょうぶ			魚住直子	いつか、大切なところ	5上		阿部夏丸	みちくさ		★	
重松清朽	カレーライス		★	ベンジャミン	世界でいちばんやかま			椋嶋十	大造じいさんとが			宮沢賢治	注文の多い料理店	5上		
木洋椋嶋	たずねびと	5年	★	宮沢賢治	注文の多い料理店	5年		宮沢賢治	雪わたり			木下順二	木竜うるし			
十今村葦	大造じいさんとが			椋嶋十	大造じいさんとが			ジョン＝エイ	三人の旅人たち	5下		杉みき子	ゆず			
子森絵都	雪の夜明け			やなせたかし	サボテンの花			杉みき子	あの坂をのぼれば	6上		椋嶋十	大造			
宮沢賢治	帰り道			木村裕一	風切るつばさ			いぬいとみこ	川とノリオ							
立松和平	やまなし	6年		立松和平	海のいのち	6年		梨木香歩	ブラッキー							
	海の命		☆	今西祐行	ヒロシマのうた			安								
ジム＝ラマーシ	いかだ			天野夏美	いわたくんちの											

